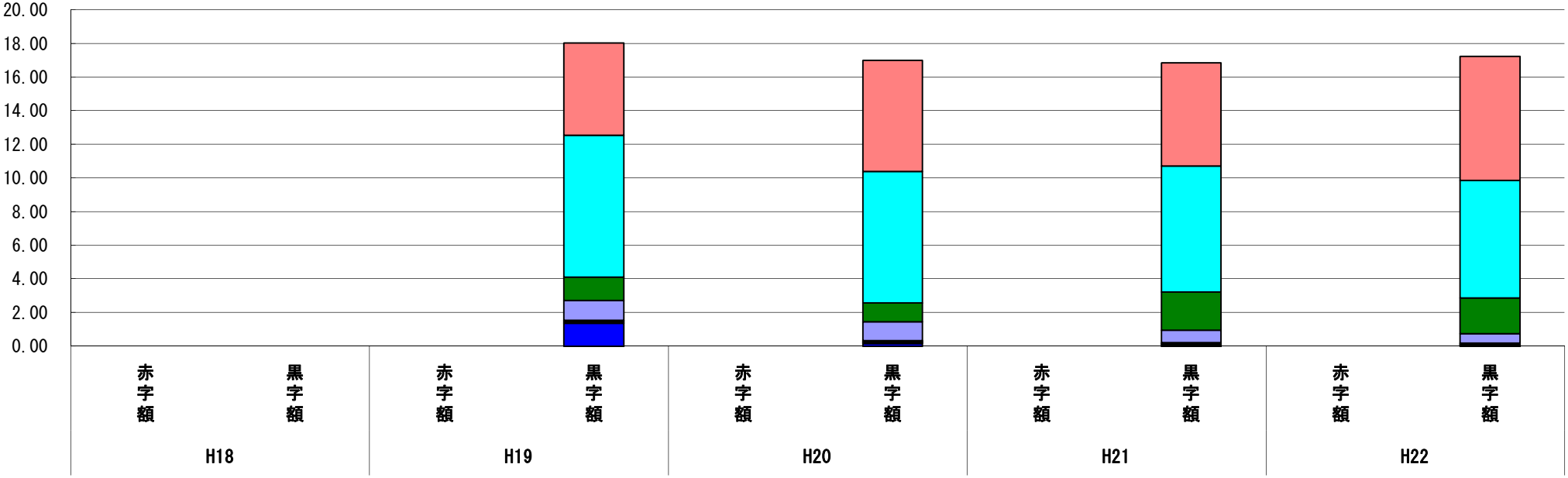
（6）連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成22年度

宮城県大郷町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計＼年度	H18	H19	H20	H21	H22
一般会計	-	5.49	6.62	6.13	7.37
水道事業会計	-	8.45	7.80	7.50	7.00
国民健康保険特別会計	-	1.38	1.12	2.27	2.13
介護保険特別会計	-	1.17	1.12	0.75	0.56
下水道事業特別会計	-	0.05	0.02	0.05	0.06
農業集落排水事業特別会計	-	0.06	0.06	0.04	0.06
後期高齢者医療特別会計	-	-	0.02	0.02	0.03
戸別合併処理浄化槽特別会計	-	0.08	0.07	0.07	0.02
その他会計（赤字）	-	-	-	-	-
その他会計（黒字）	-	1.35	0.16	0.02	0.00

分析欄

連結実質赤字比率については、これまで一般会計・公営企業会計及び各種特別会計において赤字額を計上したことはない。しかしながら標準財政規模比においては、いずれの年度においても16～18%台で推移し、厳しい財政事情といえる。

特に各種特別会計においては、その比率のほとんどが0．1%以下であり、一般会計からの繰り入れによってかろうじて健全化を保っている状況で、最終的には一般会計の財政を圧迫することになっている。

一般会計においても自主財源の確保に苦慮しながら、財政調整基金や公共施設整備基金を取り崩して運営している状況である。

今後は、一般会計においては、企業誘致等による新たな自主財源の確保とともに、町税の徴収強化に取り組みながら歳入の確保に努めることが課題であり、保険関係特別会計では、保険料の適正化や給付費の抑制、下水道関係特別会計では、経費の節減や使用料の見直し等により、より一層の健全化に努める必要がある。

※平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。